

グループワーク全体発表

◇グループワーク①

点滴や胃瘻などの栄養管理(行わないことも含めて)についてどのように考えますか。

医療の視点

- ・予後や見通しの共有が必要。
- ・経口摂取が出来る間は楽しめるような援助が必要。
- ・本人、家族は胃ろうや点滴についてどんなイメージを持っているか確認する必要。
- ・今後の方針選択によるメリットとデメリットを主治医から家族へお伝えし、本人と家族で話し合ってもらおう。
- ・在宅生活を継続する場合、リーダーシップを取る人を決め、確認しながら進める。
- ・緊急時の対応方法(訪看など)を伝え、安心感を持っていただく。

介護の視点

- ・家族の介護力を把握するために家族の情報収集が必要。
- ・本人だけでなく家族へのケアも重要。
- ・家族が感じている介護に対する不安解消のため、介護方法の指導を行う。また、その時々で不安は出てくるので、しっかりとコミュニケーションをとりながら支援を行うことが大切。

◇グループワーク②

死が近づいた時に医療介護チームとして、どのような対応や配慮をしたらよいでしょうか。

本人に対するケア

- ・褥瘡ケアなど、本人の苦痛を和らげるケアを。
- ・最後まで本人らしい生活を整える。(好きな音楽、香り、部屋の環境など)
- ・手をさすったり、スキンシップを大切にする。
- ・本人の気持ちを尊重し、家族と過ごせる時間を作る。
- ・安楽に過ごせるよう、苦痛の緩和や楽な姿勢保持を。
- ・痛みを伴うような医療は引いていく。緩和的ケアを積極的に行う。
- ・医療職、介護職と意思疎通しておく。

家族に対するケア

- ・本人が亡くなる過程を家族がどこまで理解されているのか確認が必要。家族全体で理解してもらう。
- ・家族として、本人のために何か出来たという思いを持っていただけるような支援、できるだけ本人と関わってもらうことが大事。
- ・亡くなったあとのアドバイスを事前に家族へお伝えしておく。
- ・予後予測も含め、こんな症状の時はここ、困った時の連絡先などを形として見えるもの(パンフレットなど)にしておく。
- ・看取りの経過をしっかりと伝えることで、急変時も慌てることなく対応できる。
- ・呼吸のあるうちに長男さんに帰ってきてもらうよう、ケアマネから伝えてもらう。
- ・家族もケアに携わっていただくことで、満足感に繋がる。
- ・家族間の意思疎通、希望のすり合わせ。県外家族への状況説明。
- ・家族と一緒に介護をするというスタンスが大切。